

平成 31 年度 北海道大学教育学部 第 3 年次編入学及び転部試験

試験問題（総合問題）

9 時 00 分～10 時 30 分

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題は、（英語）と（論文）の 2 つがある。両方の問題のすべての問いに解答すること。
- 3 問題紙は、この頁を含めて 6 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚ある。
- 5 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 6 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 7 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 8 問題紙及び下書き用紙は、すべて持ち帰ること。

以 上

(英語)

問題 1

「問題文 1」の文章は、Teaching the human condition という章の一部である。この文章を読んで、次の問いのすべてに、英語で答えなさい。

[出典: Edgar Morin, *Seven Complex Lessons in Education for the Future*, translated by Nidra Poller, (UNESCO, 1999), p. 21]

問 1. 下線部 A と対(ついで)になる意味内容を持っている表現(ある文の一部)を、この文章の中から抜き書きしなさい。

問 2. 下線部 B、C のそれぞれの意味内容に関する問いとして提示されている疑問文を、この文章の中からすべて抜き書きしなさい。

問 3. 下線部 D に相当する意味内容が、The social sciences に関して述べられている文として最も適切なもの(一つの文)を、この文章の中から抜き書きしなさい。

問 4. 下線部 E、F のそれぞれの意味内容を表している表現として列挙されているものを、この文章の中からすべて抜き書きしなさい。ただし、接続詞等は省略し、句読点としてコンマを用いること。

問題文 1

(論文)

問題 2

「問題文 2」の文章で、著者は、「人間という存在は、検証済みの知識によって養育され、思い違いや幻（まぼろし）を糧（かて）とする」（下線部 A）と述べ、さらに、「研究・発見は、不確実性・決定不可能性という大きく開いた裂け目の中で、前進する」（下線部 B）と述べている。

[出典: Edgar Morin, *Seven Complex Lessons in Education for the Future*,
translated by Nidra Poller, (UNESCO, 1999), p. 28]

このように、人間は、実在的なもの (the real) を認識することができるが、想像上のもの (the imaginary) に侵される存在であって、客観的と主観的とを、実在的と想像上とを混同することがあるとすれば、学校での科学の教育（ここでは、自然科学の教育に限定する）を効果的に行うためには、子どもの認識過程をどんなものにすればよいと考えるかを、日本語で、400 字以内で答えなさい。

「参考資料」を手がかりとしながら、学問としての自然科学では検証済みの理論であっても、それをはじめて理解しようとする子どもにとっては新しい理論であることに注意して、述べること。

[出典: エドガール・モラン『方法 3. 認識の認識』、大津真作訳、(法政大学出版局、2000 年)、
pp. 273-275.]

問題文 2

